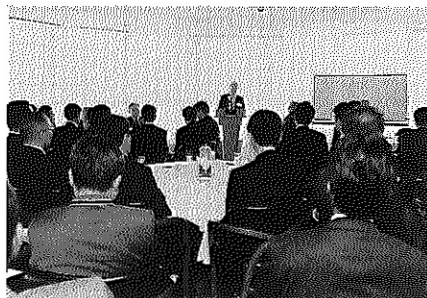


本格的繁忙期をまえにキックオフの集い 60名が参加、鳶信彦氏の時局講演も

東京冷凍空調事業協同組合



東京冷凍空調事業協同組合（沖原 正宣理事長）は3月28日午後、東京・港区海岸のインターコンチネンタル東京ベイで「20年度キックオフと時局講演会の集い」を開催した。開会挨拶で沖原理事長は「日頃のご愛顧に御礼申し上げたい。組合が新橋という都内の一等地のビルの8～10階を使用するまでに成長したのも本日お集まりの皆さんのおかげ」と感謝の意を述べた。また、北隅和成(株)イーズ社長は来賓あいさつで「組合との出会いは当社にとって運が良かった。いまは“スープが冷めない距離”にお互いいるのでこれまでのすてきな関係をこれからも維持、発展させたい」と祝辞。また、濱田辰夫 (株)東電ホームサービス社長、谷本肇 日立空調販売関東(株)社長からも挨拶が述べられた。次いでジャーナリストの鳶信彦氏が「激動する世界と日本」と題して約一時間にわたり最近の政治、経済の現状と今後の展望につい

て講演した。

ホテル6階の「サンセットラウンジ」で開かれたこの日の集いには組合の主要な取引先と組合員など約60名が参加、今シーズン工事の無事故、期限内完工などを誓った。

なお、パーティー後に会見した沖原理事長は「講演会に好印象を持った鳶 信彦氏が組合のアドバイザーに就任することを快諾してくれた」など次のように語った。「彼とは高校時代からのつきあいで、講演会で若い人たちが熱心に耳を傾けていたことが印象に残ったようだ。これまで組合の話は折に触れていたが、組合の実際に触れてもらうのは今回が初めてだった。今後、いろいろな局面で適切なアドバイスを期待している」。

「ここ数年、組合は倍々ゲームで成長を遂げ、昨年は43億円の施工高となった。しかし今後は右肩あがりの成長は望めないし無理な面がある。しかし、官公需などこれまで手が回らなかった分野の受注確保に努めたい」と強調した。

